

政界地獄耳



敬称略

「だろ」。7日、国民新党幹事長・下地幹郎は亀井が進めていた都知事・石原慎太郎との新党構想には「亀井と私に溝がある以上、一緒にやっっていくのはもう敵いのではないか。郵政民営化改正案が成立して国民新党の役割が終わったら、党の将来像を考えたい」と合流しない考えを示した。

★分裂した国民新党。金融相・自見庄三郎が代表となり、何事もなかったように連立政権に居座る。その大義は「結党の理念である郵政民営化法改正の実現」だ。ある全国特定郵便局長会関係者が言う。「前党代表・亀井静香は法案成立も見届けずに敵前逃亡した。我々は最後まで成立に責任を持った自見ら国民新党残党を支持する」。J.P.労組関係者も「亀井には失望した。これからも民主党とともに国民新党を支持していく」と次期選挙も国民新党を支援していくと語る。

★自民党議員が言う。「これが国民新党亀井外しクーデターの秘密だろ。亀井を敵前逃亡扱いし追い出して、亀井と支援母体を切り離し、党に残った議員だけが次期選挙で支援を受けて勝ち抜く算段と聞こえる」

亀井追い出し支援母体と分断

★自民党ベテラン議員が言う。「下地は亀井を裏切り者のように扱い支援母体の信頼を集め、法案成立後に民主党入りを決める腹だろ。支援母体もいように使われたのではないか」。その郵政民営化法改正案は明日12日に衆院本会議で成立する。この法案にかけていたのはだれあろう亀井自身だ。郵政民営化法が成立した時には自民党はバラバラになった。そして今回の改正案成立では国民新党が空中分解した。多くの政治家の政治活動を翻弄(ほんろう)した郵政民営化法とは何だったのだろか。(K)